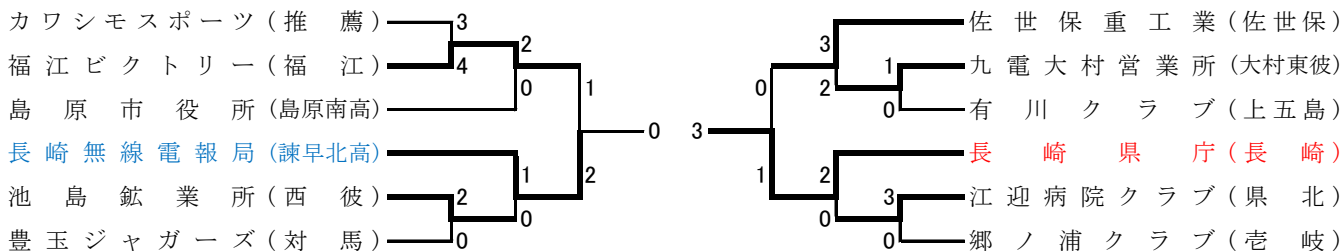


長崎無線悲願のVを阻んだ県庁が8年ぶり二度目の栄冠

第24回長崎県軟式野球選手権大会

会期 昭和49年10月25日(金)～27日(日)
会場 長崎市宮大橋球場



上五島軟式野球連盟がこの年に創設され、県選手権大会にも上五島地区から参加するようになった。

開会式に続いて一回戦4試合が行なわれ、第1試合で昨年度優勝のカワシモ外販スポーツ(佐世保)が福江ビクトリーに延長のすえ敗れた。第2試合は池島鋳業所がチャンスをよく生かし豊玉ジャガーズを下した。

第3試合は九電大村営業所が杉浦の好投で有川クラブをノーヒットに抑え寄せ付けなかった。第4試合の江迎病院クラブー郷ノ浦クラブは活発な打撃戦を展開したが郷ノ浦はチャンスを生かせず、江迎のうまい試合運びに完封された。

(昭和49年10月26日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

カワシモ(昨年度優勝)早くも姿消す 中村、殊勲の決勝打

延長8回 カワシモを突き放す

【福江】打安点

②	山内	4	1	0
⑦	大川	3	0	0
⑧	江頭	3	1	0
⑥	中村	3	2	1
⑤	坪内	3	0	0
④	津田	3	1	0
③	安永	1	0	0
H31	平山	2	1	1
⑨	竹田	3	0	0
①3	久保	2	0	0
		24	6	2

【一回戦】

	振球	犠	盗	失	残	併
福江ビクトリー	000	101	02	4	4	1 0 2 1 5 1
カワシモスポーツ	000	002	01	3	1	4 0 1 1 4 0

【カワシモ】打安点

⑤	米丸	2	0	0
④	渡辺尚	2	1	0
⑦	渡辺耐	2	1	2
⑥	山口	3	0	0
②	中元	2	0	0
①	39元山	2	0	0
③	75松野	3	0	0
⑨	6山崎	3	0	0
⑧	木原	3	0	0
		23	2	2

(延長8回は一死満塁制) 【三】中村、渡辺耐 【二】江頭

【評】福江は四回先頭の中村が左中間三塁打。坪内の三ゴロで飛び出しタッチアウト。チャンスは潰れたに見えたが二盗と敵失で三進の坪内が代打・平山の左前適時打で還って先制した。六回は二塁打の江頭が中村のタイムリーで生還。福江は無安打に抑えていた久保に代えて平山が六回から登板。カワシモは平山を捕らえた。四球と渡辺尚が初安打のあと渡辺耐が右中間に同点三塁打した。

一死満塁制の福江は二死から当り屋の中村が中前に2点打。その裏のカワシモは敵失などで1点を返したのみで初戦で姿を消した。

【池島】打安点

②	面崎	3	0	0
③	須藤	3	0	0
⑥	出口	2	0	0
⑧	大始良	3	1	0
①	尾上	1	0	0
⑦	山本	3	1	0
⑤	白浜	3	2	1
④	山田	3	0	0
⑨	菜切	2	0	0
9	野中	1	0	0
		24	4	1

【一回戦】

	振球	犠	盗	失	残	併
池島鋳業所	000	000	2	2	3	3 0 4 1 4 0
豊玉ジャガーズ	000	000	0	0	7	4 0 4 1 6 0

【豊玉】打安点

④	末松	2	0	0
②	精松	2	0	0
⑤	松井	3	1	0
⑧	斉藤	3	0	0
⑥	中島	2	1	0
③	日高	3	0	0
⑨	長郷	2	0	0
H	津屋	1	0	0
①	阿比留	2	0	0
H	笹田	1	0	0
⑦	佐伯	1	0	0
H	平山	1	0	0
		23	2	0

【評】双方合わせてヒット数は6本。五回までチャンスらしいものはなく単調な投手戦。攻撃にもう一工夫欲しいところ。

池島は七回、大始良が左前安打して二三盗後、尾上も四球で出塁。一死後白浜がスクイズバントを決めようとして見送り、三塁手の松井がホームベース寄りに近づき捕手の精松は誰もいない三塁へ悪送球して1点を先制。この間二進した尾上を白浜が左前へクリーンヒットして2点目を挙げた。

豊玉は散発2安打で池島の尾上を打ち崩せなかった。

【有川】打安点

⑥	平本	2	0	0
④	上山	3	0	0
⑤	荒木	2	0	0
③	川上	3	0	0
⑧	高木	3	0	0
②	江口	3	0	0
①	平山	1	0	0
H	野内	1	0	0
⑨	浜崎	2	0	0
H	原	1	0	0
⑦	松堂	2	0	0
		23	0	0

杉浦、投打に活躍 有川を無安打に抑える

【一回戦】 振球犠盗失残併

有川クラブ	000 000 0	0	5	3	0	2	1	5	0
九電大村営業所	000 001 X	1	2	2	0	0	2	4	0

【二】坂口 杉浦

【評】五回まで双方とも無安打。大村は六回坂口が左越え二塁打。続く松下の遊ゴロで三塁を欲張ってタッチアウトされ二死となりチャンスは潰れたかにみえたが、続く杉浦が左中間を深々と破り一走の松下が一気本塁へ躍り込み貴重な決勝点となった。
有川は杉浦のコーナーを突く軟投に手を焼きノーヒットに抑えられた。九電大村は杉浦が投打にわたり杉浦の活躍が光った。

【大村】打安点

②	田中	2	0	0
⑨	坂口	3	1	0
⑥	松下	2	0	0
①	杉浦	3	1	1
⑦	森	3	0	0
⑤	永瀬	2	0	0
③	川瀬	2	0	0
⑧	中本	2	0	0
④	宮崎	2	0	0
		21	2	1

江迎が打ち勝つ

【一回戦】 振球犠盗失残併

江迎病院クラブ	100 200 0	3	1	4	0	5	0	8	1
郷ノ浦クラブ	000 000 0	0	3	1	0	1	0	4	0

【三】村田安 村井2

【評】江迎は一回二死後に安田が三塁内野安打。村井の左越え二塁打で1点を先制。さらに四回は村井が2打席連続二塁打で出塁、青田の二塁ゴロで三進。二死後大石が四球に二盗。川口の二塁内野安打を野手がジャグリングして球をわきへそらす間に二者生還し2点を加えた。

郷ノ浦は初回先頭の村田安がいきなり三塁打し活発な攻撃戦になると思われたが続く三人が凡退し同点機を逸した。その後は先頭打者が三度、内野安打などで出塁したが江迎・中島投手のうまい配球に決定打を欠き敗れ去った。



【江迎】打安点

⑨7	吉永	3	1	0
H7	白井	1	0	0
⑦	本浪	2	0	0
H9	田崎	2	1	0
③	安田	3	1	0
②	村井	3	2	1
⑧	青田	4	0	0
⑤	柴山	3	1	0
④	大石	1	1	0
⑥	川口	3	1	1
①	中島	3	0	0
		28	8	2

【郷ノ浦】打安点

⑥	村田安	3	1	0
⑤	定村	3	0	0
⑧	浦川	2	0	0
④	丸尾	3	1	0
①	村田浩	3	1	0
⑨	柳沢	3	1	0
⑦	崎原	3	0	0
②	山内	2	0	0
③	山川	2	0	0
		24	4	0

セーフ！
3回表、江迎の吉永が二盗に成功

坪内が2ランホーム

【島原】打安点

④	深浦	3	0	0
⑤	平野	3	1	0
①	林田	3	1	0
③	森永	3	0	0
⑧	谷口	2	0	0
H	成瀬	0	0	0
R8	梅村	0	0	0
⑨	岡本	3	0	0
②	山北	2	0	0
⑥	吉田	2	0	0
⑦	鋏取	1	0	0
H7	松岡	1	0	0
		23	2	0

【準々決勝】 振球犠盗失残併

島原市役所	000 000 0	0	3	1	0	3	3	2	0
福江ビクトリー	000 002 X	2	0	3	0	1	1	6	0

【本】坪内 【三】平山

【評】福江は六回一死後中村が三遊間を抜き続く坪内が左越え2ランして試合を決めた。島原は四回に平山と林田が連続内野安打に重盗の無死二三塁の好機にスクイズ失敗や、後続が凡退して得点機を逸した。その後も福江・平山投手のカーブに手を焼き、安打は四回の2本のみで終わった。
福江も二回と五回に得点機をつかんだが、林田のシュートに決定打を欠き、坪内の一発が値千金となった。



6回裏、一死後福江の坪内が一塁に中村を置き左翼スタンドへ今大会初ホームラン。捕手山北。

【福江】打安点

②	山内	3	1	0
⑦	大川	2	1	0
⑧	江頭	2	0	0
⑥	中村	3	1	0
⑤	坪内	3	2	2
④	津田	3	0	0
①	平山	3	2	0
③	安永	2	0	0
3	門	0	0	0
⑨	竹田	2	0	0
		23	7	2

【池島】打安点

①尾上	4 1 0
⑤白浜	3 0 0
⑥出口	3 0 0
⑧大始良	3 0 0
②面崎	3 1 0
⑦山本	3 2 0
③須藤	3 2 0
④山田	3 0 0
⑨菜切	1 0 0
9野中	2 0 0
28 6 0	

池島、エラーに泣く 好投の尾上を見殺し

【準々決勝】 振球犠盗失残併 【三】尾上

池島 鋳業所	000 000 0	0	1	0	0	0	1	7	0
長崎無線電報局	001 000 X	1	5	1	1	1	1	2	0

【二】田村 山本、面崎

【評】試合は池島が長短6安打を打ち押し気味だった。初回の池島は先頭の尾上が左中間三塁打。二回と七回には山本と須藤が連打しながら、何れも後続が無く無得点に終わった。

三回の長崎無線は一死後に四球の大石が二盗。飯田は三振で内川は平凡な右飛。これを目測を誤った野手がバンザイの形になり大石が生還し、これが決勝点となった。池島の尾上が好投していただけに痛恨のエラーだった。一方の長崎無線・大塚は緩急で打たせてとるピッチング。池島打線はよく打ったが無線外野手の好守好捕が光った。

【無線】打安点

③内川	3 0 0
⑨川上	3 0 0
⑧田村	3 1 0
⑦岩井	2 1 0
①大塚	1 0 0
⑤野田	2 0 0
⑥湯浅	2 0 0
②大石	1 0 0
④飯田	2 1 0
19 3 0	

【佐世保】打安点

⑥下村	4 1 1
⑦辻	4 0 0
③石井	4 2 1
①佐々木	3 0 0
⑤山田	2 0 0
⑨山川	1 0 0
H92石井博	0 0 0
②野崎	2 0 0
H9伊藤	0 0 0
④松尾	1 0 0
H4松田	1 0 0
⑧白浜	2 1 0
24 4 2	

九電大村の逆転もつかの間

【準々決勝】 振球犠盗失残併

佐世保重工業	000 001 2	3	2	5	1	0	1	6	0
九電大村営業所	000 011 0	2	4	7	2	2	3	4	2

【二】石井 杉浦

【評】九電大村は五回に中本が安打し二盗と犠打で三進し、暴投により先制した。佐世保も六回一死二塁で石井が三遊間を抜いて二塁から下村を迎えて同点。ところが九電大村もその裏に2四球と佐々木の暴投で再び1点のリード。

だが佐世保は七回に疲れのみえた大村の杉浦から2四球を得、代わった中本からも四球の満塁に下村の二遊間安打にワイルドピッチで2点を挙げて逆転し、そのまま逃げ切った。

【大村】打安点

⑦6田中	3 1 0
⑨坂口	2 0 0
③川瀬	2 0 0
①7杉浦	2 2 0
⑧森	1 0 0
⑤永瀬	3 1 0
⑥1中村	3 1 0
④嶋村	1 0 0
②高木	1 0 0
H宮崎	1 0 0
19 5 0	

【江迎】打安点

①桑上	2 0 0
⑤川口	3 0 0
⑥柴山	3 0 0
②4村井	2 0 0
H4中島	1 0 0
⑧青田	3 0 0
③2佐々木	2 0 0
⑦本浪	2 1 0
⑨吉永	2 0 0
④白井	0 0 0
23松尾	2 0 0
22 1 0	

初回の2点を守り逃げ切る

【準々決勝】 振球犠盗失残併

江迎病院クラブ	000 000 0	0	8	1	0	1	2	2	0
長崎県庁	200 000 X	2	9	1	1	4	0	4	1

【二】本浪

【評】県庁は初回、井手の内野安打と橋口の左前打の二死一三塁に田中隆の内野安打で先制し、橋口と田中の重盗が成功し江迎内野陣を乱して2点目を挙げた。

その後は両チームとも速球を武器にした投手戦。江迎の桑上は県庁打線から4連続三振を含む毎回の9奪三振の好投したが、打線の援護がなく無念の敗戦。県庁の山内も安打1本に抑え江迎打線を寄せ付けず、初回の得点をそのまま守り切った。

【県庁】打安点

⑦井手	3 2 0
⑥浦	2 0 0
⑧橋口	2 2 0
③芦塚	3 1 0
⑨田中隆	2 1 1
H9福田	1 0 0
①山内	3 0 0
⑤原	2 0 0
④田中学	2 0 0
4宿輪	0 0 0
②松本	2 0 0
22 6 1	



最終日は10月27日に準決勝、決勝の3試合を行った。準第1試合は前日から勢いに乗る福江ビクトリーが積極的に長崎無線局を攻め、中村のタイムリーで先行したが、長崎無線局も六回に富高の二塁打で追いつき今大会2度目の延長戦。八回一死満塁制から内川がスクイズを決めてサヨナラ勝ちした。第2試合は長崎県庁が五回に2安打2死球で押し出しの決勝点を挙げ、守っては宿輪投手が佐世保重工業打線を1安打に抑えて完封

勝ちした。決勝戦は0-0で九回を終って延長戦突入。13回に県庁が2本の安打と敵失で出た走者を犠牲フライと橋口の2点タイムリーで一挙3点をもぎとり試合を決めた。閉会式は午後2時半から行なわれ、松浦継義県軟式野球連盟会長から優勝旗と準優勝杯が両チームに手渡され3日間にわたる熱戦の幕を閉じた。

(昭和49年10月28日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

【福江】打安点

②山内	300
⑦大川	300
⑧江頭	310
⑥中村	311
⑤坪内	310
④津田	310
①平山	300
③門	310
⑨竹田	200
26 5 1	

スクイズでサヨナラ 長崎無線

【準決勝】 (延長8回) 振球犠盗失残併

福江ビクトリー	100 000 00	1	1	0	0	1	0	4	0	【二】江頭、津田
長崎無線電報局	000 001 01x	2	9	1	0	0	0	2	0	富高

【評】初回の福江は江頭が右中間二塁打し中村も右中間に流し打って先制したが二回以降は無線・大塚の緩い球に手を焼き散発3安打。

長崎無線は五回まで四球の走者だけで福江・平山に無安打だったが、六回に先頭の内川が二塁内野安打。代打の富高が左中間を深々と破る三塁打で同点に追いついた。

延長八回から一死満塁制。福江は当たっている中村から始めたが、二者とも平凡な飛球で無得点。長崎無線は内川が初球をスクイズを決めた。福江にとって惜まれるのはスクイズの球をつかんだ投手の平山が捕手へ送球するだけで本封されていたが、ボールを持ったまま本塁へ駆け込んだため、一瞬遅れてしまった。

【無線】打安点

③内川	310
⑤野田	200
H5 富高	111
⑧田村	300
⑦岩井	300
①大塚	200
⑨川上	200
②大石	200
⑥入江	100
H6 湯浅	100
④飯田	100
H 大岩	100
4 溝上	000
22 2 1	

【佐世保】打安点

⑥下村	300
⑤4 松田	300
③石井	310
⑦辻	200
①佐々木	300
⑧白浜	200
⑨山川	100
H9 石井	100
②野崎	200
④松尾	100
H5 松田	000
21 1 0	

佐世保に魔の五回

佐々木乱れ涙のむ

【準決勝】 振球犠盗失残併

佐世保重工業	000 000 0	0	7	2	0	0	0	2	0
長崎県庁	000 010 X	1	1	4	1	1	0	6	0

【評】佐世保重は五回まで県庁の宿輪に無安打に抑えられ、六回にやっと四球走者を送ったが後続なく。七回一死後に石井が左翼線に初安打するも二盗死で好機をつぶした。

県庁も左腕・佐々木のカーブに手を焼いていたが、五回に井手と田中が連打し原のバントで一死二三塁。代打の山口が捕飛に倒れた後に、佐々木投手が乱調気味になり2連続四球で押し出しの決勝点を得た。

【県庁】打安点

⑥浦	100
①宿輪	201
④橋口	310
③芦塚	300
⑧浜村	310
⑦井手	320
⑨田中隆	310
⑤原	000
②神崎	100
H 山口	100
2 松本	000
20 5 1	

長崎県庁 8年ぶりの王座

長崎無線あと一步 延長13回 山内が完封

【決勝】 (延長13回) 振球犠盗失残併

長崎県庁	000 000 000 000 3	3	3	0	2	1	1	7	0	【二】野田、福田
長崎無線電報局	000 000 000 000 0	0	9	6	1	3	3	12	0	

【評】県庁・山内、無線・大塚両投手ともコーナーを丁寧に突き、肝心なところで相手打線をかかわすピッチング。大塚は34歳のハンディをうまく利用した軟投派。若い県庁打線はこの大塚の術中にはまり込み強振して凡フライを打ち上げるケースが目立った。一方の長崎無線も安打や四球のあと二塁へ走者を進め再三得点機を掴んだが後続が無かった。

延長13回の県庁は、この日当り屋の山内が三遊間。原の三ゴロが併殺を焦って二塁悪送球。松本が内野安打し無死満塁。井手の中犠飛で両チーム初めての得点となった。この間に二走と一走もそれぞれ進塁した二死後に橋口が右翼線に2点適時打し加点した。

長崎無線局は5、6、11回に得点圏へ走者を進めたが、盗塁失敗が重なり後続打者が山内に抑えられるなど、もう一步及ばなかった。長崎無線の大塚投手は準決勝からの続投。コーナーを突く緩急をうまく使い分け

たピッチングで健闘したが、13回に力尽きた。

延長13回、県庁無死満塁で井手の中犠飛で山内が三塁から還り初得点。⑩は大石。③は内川一塁手。

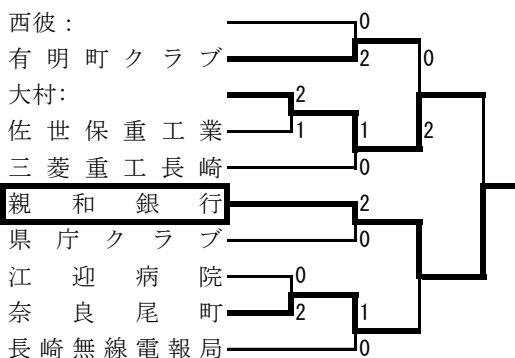


【無線】打安点

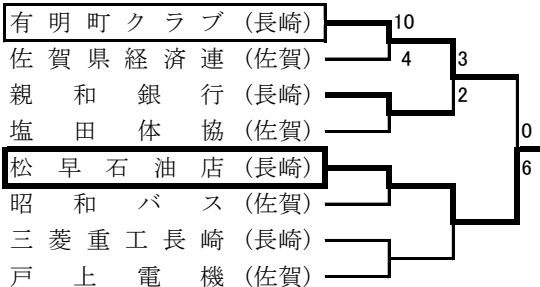
③内川	500
⑨川上	500
H 大岩	100
⑧田村	530
⑦岩井	520
⑤富高	300
④飯田	100
4 折元	000
H 大田	000
①大塚	500
④56 野田	520
②大石	400
⑥湯浅	100
H 天達	000
6 入江	100
H 深川	100
5 溝上	100
43 7 0	

昭和49年のできごと

天皇賜杯第29回全日本・県予選(6.15～・佐世保)



第29回茨城国体・西九州大会(9.1～2・大橋球場)



第29回茨城国体【29チーム】10.21～

【一】 松早石油店 1-2 八戸魚市場(青森)

天皇賜杯第29回全日本【52チーム】(8.6～・愛媛県)

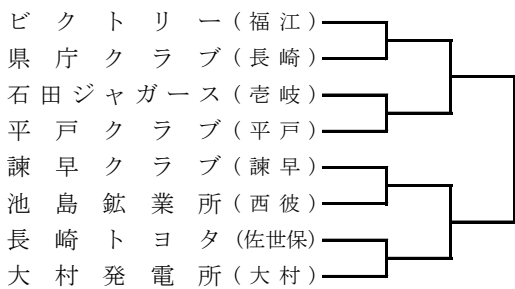
【二】 親和銀行 2-3 大倉工業(香川)＝優勝チーム

常陸宮賜杯第10回全日本準硬式(6.1～・栃木県)

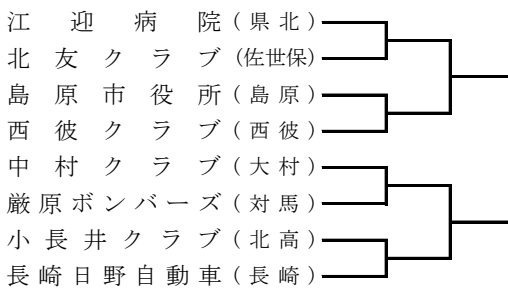
【一】 長崎県庁 1-2 日産サニー岐阜(岐阜)

高松宮賜杯第19回全日本・県予選(7.13～・大村)

【1部】



【2部】



1部と2部の同時開催であったが二日連続の雨天。(結果不明) 県代表のチームは九州ブロックで敗退。

第26回県民体育祭・軟式野球競技(11.9～・長崎)

【一回戦】 東彼 1-0 五島 南高 8-6 北松 北高 2-1 西彼 残り試合は降雨順延。第二日も雨天で大会中止。

【昭和49年次の長崎県軟式野球連盟役員】＝国体西九州地区予選大会プログラムより引用

資料	会 長	松浦継義	副理事長	中村 豊	理事(支部理事長)				
	副会長	中村弘海	常任理事	松沢 繁	長崎	平井清光	島原	酒田 剛	上五島 前田英敏
	"	松原 泰	"	前野士朗	佐世保	浮田逸郎	西彼	佐藤 登	壱岐 柴山昭三
	"	吉田順彦	"	佐方 弘	諫早	藤田栄三	県北	松尾隆藤	対馬 国川静男
	理事長	渡辺 源	"	平井清光	大村	沖田禎男	福江	平山昌一	

この年の高校軟式で離島の宇久高校が全国大会と国体の両大会とも準優勝という快挙を成し遂げた。その立役者は投手の増本宏で県大会と北九州大会ではノーヒットノーランを2試合達成して全国大会へ。準決勝までの4試合を完封し予選から連続98イニングス無失点の記録を作った。だが三日間で4連投の疲れから決勝戦の初回に守備の乱れて初失点。6回裏に同点としたが8回に2ラン本塁打され、9回も二死二塁から連続二塁打を浴びて1-5で敗戦。準優勝に甘んじた。

秋の国体。44年の長崎国体では開催県代表として県大会で優勝した宇久が出場したが初戦で札幌商に敗退(1-4)している。だが今回は実績を引っさげての国体出場。初戦の富山商戦は増本の本塁打などで8-0の7回コールド。次が準決勝で能代(秋田)に対し2-1とリードの9回表に同点とされ、延長17回裏にサヨナラ勝ちした。決勝は地元の竜ヶ崎一高。初回の3点先取もジワジワと追いつけられ1点差の7回に一挙4点奪われて3-6で敗戦も、2大会準優勝の快挙を達成。

第19回全国高等学校軟式野球優勝大会
◇宇久高校◇

- 【一】 3-0 久世高(岡山)
- 【二】 3-0 福井ろう(福井)
- 【準々】 3-0 平安高(京都)
- 【準】 2-0 江北高(東京)
- 【決】 1-5 岐阜商高(岐阜)

第29回茨城国体・高校軟式野球競技会
◇宇久高校◇

- 【二】 8-0 富山商高(富山)
- 【準】 3-2 能代高(秋田)
- 【決】 3-6 竜ヶ崎一高(茨城)

投手の増本は九州産業大学から53年ドラフト4位で大洋(現横浜)に入団。9年間に在籍し109試合に登板し2年目に挙げた4勝3敗が成績。実働8年間で162回の防御率は4.17。

投手	増本 宏	右翼	松永 昭彦
捕手	堤 政嗣	控え	指方 郁夫
一塁	中野 光治	"	岩井世利行
二塁	網田利一郎	"	岡本 力
三塁	森 秀光	"	築山 道夫
遊撃	柄本 裕二	"	田淵 留則
左翼	柄本 修一	監督	松尾 信哉
中堅	平田 伸二	コーチ	坂元 雅彦